

「第67回全国人権・同和教育 研究大会（長野大会）」 に参加して

同和对策審議会答申が出されて50年の節目となる年に、東日本では30年ぶりに、そして長野県では初めての開催となる全国人権・同和教育研究大会が11月21・22日に長野市を中心に開催されました。冬支度の進む信州の地に、全国各地から約1万人の方が、それぞれの思いを込めて集まりました。私もこの大会に特別な思いを持って参加した一人です。

今から22年前、鳥取県部落解放月間に県主催の同和問題講演会で、当時長野県同和教育推進協議会顧問の中山英一氏の講演を聴き、深く感銘を受けました。差別とは何か、差別をなくすためには何が大切なのかを実に明快に示された講演で、「差別に気づかない人は、平気で人を差別する」、「全ての人間は一人残らず差別する人間であり、差別される人間である。そのことへの気づきが大切だ」、「同和教育は人間としての生き方を学ぶ教育だ」の言葉は、今でもしっかりと脳裏に刻み込まれています。残念ながら、中山先生は5年前に亡くなられています。本研究大会の地元開催は先生の悲願でした。先生への感謝の気持ちを込め、また新たな学びとの出会いを期待して参加させて

いただきました。

全体会は、17年前に長野オリンピックのスケート競技の会場となったホワイトリングで行われました。開会式の挨拶で、地元実行委員長が言われた、「ともすれば耳ざわりの良い「人権」という言葉に流され、学校教育、社会教育から部落差別の問題を取り上げた実践が次第に消えていく状況を生む結果となった」という一節が強く印象に残りました。人権教育を進めていく上で、基軸となる部落差別の問題にしっかりと向き合う必要があると課題提起されたのだと思いました。

分科会は、第1分科会「人権確立を目指す教育の創造」に参加し、5つの実践発表を聴きました。福島原発事故から生じた差別、特別支援学級の児童やその母との関わりの中で気づいたこと、識字学級から学んだこと等、どれも直面する問題と正面から向き合った実践内容ですばらしい発表でした。また、発表後の討議で、若い人たちが積極的に意見交換をしている姿が印象的で、頼もしさを感じるとともに、自分も頑張らなくてはと刺激になりました。

本研究大会に参加し、新たな学びや気づきに出会い、たくさん刺激を受けることができました。自分の取り組んできた人権教育を見つめ直し、再スタートする機会にしていきたいと思えます。
 (大山中学校 長岡一美)

大山恵みの里だより vol. 94

問い合わせ先
 大山恵みの里公社
 ☎0859-54-6600



大盛況！ 「わいわい恵み市」

11月22日に町内生産者・事業者の方々が、「わいわい恵み市」を道の駅大山恵みの里で行いました。

当日は店頭にて特設会場を設け、採れたての新鮮野菜、果物を満載した軽トラ市や、大山の恵みを存分に味わっていただける飲食ブースを展開。また恒例のつきたてお餅の



▲「ヨイショ！」子どもも一緒におもちつき

加工食品講習会のお知らせ

加工食品を製造販売する際の衛生ルールや表示ルールの学ぶ講習会を行います。

◆日時 1月12日(火)

19時30分～21時

◆会場 名和公民館視聴覚室

◆申込み・問い合わせ先

大山恵みの里公社

(担当：金田)

☎0859-54-6600